

発表テーマ：「人と馬との関わりについて」

発表者：船橋 輝夫

今回は、私の趣味である「乗馬」に関する歴史、「馬」との関わりについて一部ではありますが、紹介させていただきました。

まず「馬」と人がコミュニケーションを取り始めたのは紀元前4000年前に食用として家畜化がスタートしたことが始まりと言われています。家畜化が進み、次に人間が考えたことは、食用ではなく移動手段としても利用が進みました。

右図では「ハミ」について紹介しました。過去と現在で形状自体は大差がないことや「ハミ」の役割について紹介しました。

衝(ハミ)とは？

馬の口の中に装着し、手綱と連絡をする馬具。手綱を引く事で、馬の口に圧力感を与えて馬を制御する。車のハンドルとブレーキの役割と関係と考える。



2.中間種

特徴

- ・軽種と重種の中間に属する。
- ・軽種に比べて性格が温順。
- ・スピードは軽種に比べて劣るが、力がある為、馬術競技や馬車など様々な場面で活躍する。



「食用」「移動用」として馬との関わりが進んでいき時代の移り変わりとともに馬の用途も変わり様々な種類の「馬」が誕生しました。馬の種類も様々で30種類以上となりますが、大きく3つのカテゴリーに分類されます。「軽種」といわれるサラブレッド、左図で紹介させていただいた「中間種」は馬術競技や馬車など様々な競技で活躍します。「重種」は主だって農耕や運搬を目的とされています。

乗馬、馬術というスポーツは生き物と行う唯一のスポーツです。また乗馬は生涯スポーツと言われ老若男女問わず誰もが楽しめるスポーツです。オリンピック競技にも分類されますが、これも男女分ける事無く競う種目となっています。重要な要素は体力ではなく「馬」と心を通わせるパートナーシップを持つことが重要です。

馬の動きは①常歩②速歩③駢歩④襲歩この4種類に分類され、乗馬では、常歩、速歩、駢歩の動きを行います。

馬の動きは4種類に分類されます

- ①常歩
 - ②速歩
 - ③駢歩
 - ④襲歩
- 乗馬
- 競馬

これらの動きを動画を用いて説明します



2.速歩(はやあし)

分速220m程度の動き方。

スピードと姿勢に合から最も効率的と言われている。

4拍が1歩で動く為、2拍7とひる



1.障害馬術-動画



競技は主に3種類あり、『障害馬術』『馬場馬術』『総合馬術』になり、そのすべての競技がオリンピック種目です。

障害馬術は、決められたコースをミスなく早いタイムで駆け抜けることができるかを競います。

馬場馬術はフィギュアスケートの馬版のイメージとだけだと良いかと思えます。決められたアリーナの中で、決められた動きをいかに正確に美しく魅せるかを競います。

総合馬術は、3日間、同一人馬で行う競技となります。

1日目に馬場馬術、2日目にクロスカントリー、3日目に障害馬術を行います。中日に行う、クロスカントリーは競技の中で最もアグレッシブな競技です。

上記の説明は、乗馬におけるほんの一部です。

私も服部緑地乗馬センターで日々、馬術を行っております。

もし、ご興味がある方がおられましたら一緒に乗馬を楽しみましょう。